

常松大谷遺跡 つねまつおおたにいせき

& 常松菅田遺跡 つねまつすがたいせき



2013

Play
Back



いろいろな事が分かった 発掘調査でした

常松大谷遺跡では、奈良時代の土馬や馬形・斎串など、まじないや祭祀（おまつり）などの道具が発見されました。また、弥生時代後期（約 1,800 年前）の田んぼも見つかかり、広い平地ではなく、狭い谷間にも田んぼを造った弥生人の営みの一端が垣間見えました。

常松菅田遺跡では、古墳時代前期（約 1,700 年前）の指物腰掛が発見されました。これまで見つかったものとは違うタイプで、完形品は他に類例が見当りません。また、弥生時代中期中葉（約 2,100 年前）の管玉作りの跡も見つかかりました。山陰から北陸で共通する管玉の作り方や碧玉の特徴から、ここに住んでいた弥生人の交流の広さがうかがわれます。

下坂本清合遺跡 しもさかもとせいごういせき

下坂本オールスターズ！！！！

下坂本清合遺跡では、大きな河川が次第に流れを変えて陸地化し、平安時代の終わり頃から鎌倉時代にかけては、田んぼや水田が営まれたり、掘立柱建物が建てられるなど人々の生活の場として活用された様子が確認できました。掘立柱建物のそばを流れていた河川跡からは、土器や漆器、下駄などの生活道具のほか、人形や舟形など、信仰に関わる遺物も数多く見つかかり、当時の人々の生活の様子をまざまざと伝えてくれています。また、さらに古い平安時代中期の河川跡から、京都産の緑釉陶器もみつかっています。右の写真は、河川跡から見つかった一級品！！たちです。



鳥取西道路の遺跡を掘る！

第59号 2014年3月20日

弥生時代のアクセサリーである管玉が出土した常松菅田遺跡と松原田中遺跡では、その管玉に孔をあける（＝穿孔）ための石の針（石針）も、数多く確認できました。これまで山陰地方ではほとんど出土しておらず、貴重な発見といえます。

今回は、この小さな小さな玉作りの道具に注目してみましょう。



イタくない針で孔はあく!?

さて、冒頭で石の「針」と表現しましたが、実は、その「針」の先っぽは、注射針のように鋭く尖っていないのです。例えば、常松菅田遺跡の石針（21点）の先っぽを顕微鏡で見ると、①平ら②中心が凹む③中心に突起がある、の3つに大きく分けることができます【写真1～3】。この「針」を管玉に当てて、根気よく回転させ続けることで孔があき、ようやくアクセサリーとしての管玉が完成、となるのです。

ここ最近、山陰東部や北陸地方の弥生時代の遺跡では、発掘調査の精度が上がったこともあり、管玉と共に石針も多く見つかっています。そしてご覧の通り、石針の先っぽには色々な種類があることも分かってきました。いったいなぜ、様々なタイプの石針ができるのでしょうか？これには、孔がかけられる管玉の硬さや質の違い、また石針を使っている頻度などが考えられますが、理由はまだよく分かっていません。ところで、常松菅田遺跡からは、長さがたった5ミリなのに両端が②の形をする、「こんな短いのに、どうやって管玉に孔をあけたの!？」という石針も出土しています【写真4】。こうした状況も踏まえると、石針の先っぽだけではなく、長さや直径、また管玉のサイズなどとの関係も含めて考えることが、穿孔技術解明への道標となりそうです。

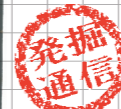
「針の「孔」から天覗く」とならぬよう、色々な遺跡の石針と見比べたり、はたまた自ら孔あけ実験をしたりしながら、弥生時代の玉作りの大変さを実感できれば、(*^o^*)b・・・と思っています。



(公財) 鳥取県教育文化財団
調査室

〒680-1133
鳥取市源太 12 番地

TEL : 0857-51-7553
FAX : 0857-51-7550
メールアドレス :
tottori-kyobun@kyobun.
sakuratan.com



今月号では、今年度行われた各遺跡の調査を振り返ってみました。こうしてみると、各遺跡とも貴重な発見が相次いだ一年でした。中でも選りすぐりの逸品たちを、現在、鳥取県立博物館の「歴史の窓」コーナーにて、4月13日(日)まで展示中です(会期中4月7日休館)。ぜひご覧ください♪
最後になりましたが、今年度もご愛読ありがとうございました。来年度もどうぞご期待ください!!

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

東桂見遺跡 ひがしかつらみいせき

& 桂見鍋山遺跡 かつらみなべやまいせき

桂見地区の遺跡フレイバック!!

【東桂見遺跡】今年度は、昨年度に引き続き1区と4区の調査を行いました。1区では主に土師器などの遺物が出土し、4区では、縄文時代前期（約5,000年前）頃の縄文土器が出土しました（写真1）。また、4区では一部を海拔0m付近（なんと現在の地面から約6mも下！）まで掘り下げるなど、なかなか大変な調査でした。

【桂見鍋山遺跡】今年度の調査では、昨年度見つかった古墳時代前期（約1,700年前）頃の水田跡の続きが現れました。ただし、昨年度の水田跡はきれいな方形の区画（写真2）ですが、今年度の水田跡はやや不規則な形をしており（写真3）、地形に合わせて形を変えているようです。

水田跡からは田下駄などの木製品が多く出土したため、今は実測を頑張っています！！

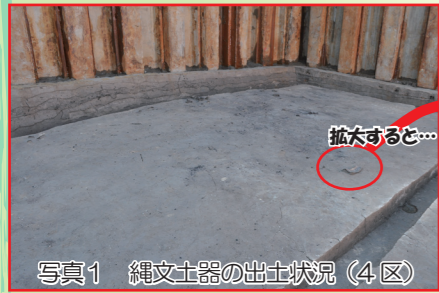
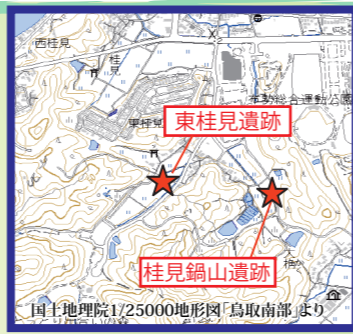


写真1 縄文土器の出土状況（4区）

拡大すると...

縄文土器の口縁部の破片が見つかりました！！

写真2 昨年度見つかった水田跡

写真3 今年度見つかった水田跡

金沢坂津口遺跡 かなざわさかつぐういせき

& 松原田中遺跡 まつはらたなかいせき



弥生時代のムラと田んぼが明らかに！！

今年度の調査では、合計8つ（金沢坂津口：6つ / 松原田中：2つ）の調査区を発掘しました。金沢坂津口遺跡では、弥生時代の中ごろ（約2,200年前）から中世（約800年前）まで続く田んぼの跡が見つっています。また、弥生時代前期～中期の川の中からは、ほぼ完全な形の手箕が出てくるなど、農作業に関連する遺構・遺物が目立って見つかりました。

一方の松原田中遺跡は、わずか400㎡の調査区の中に1,000を超える柱の穴やごみ穴などが足の踏み場もないほどに見つかるという、まさにムラの中心域にふさわしい大変な調査となりました。主な遺構の時期は、弥生時代の中ごろから古墳時代の始まりごろと考えられるので、このころの松原～金沢の平野部では、東側に集落、西側に田んぼという景観が広がっていたことが明らかとなりました。遺物も盛りだくさんなので、これからの整理に期待です（^o^）



金沢坂津口遺跡で見つかった田んぼ

プレイバック2013

松原田中遺跡で見つかったムラ

良田中道遺跡 よしだなかがちいせき

良田地区の調査終了！ 移り変わった景観とは

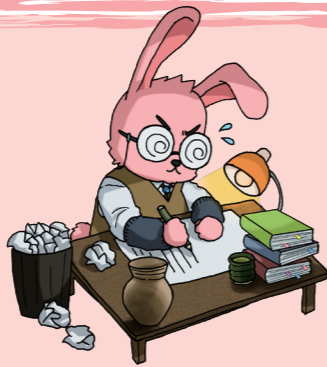
今年度の調査では、昨年度の調査区で見つかった川の続きや水田の跡、弥生時代の護岸施設、縄文時代の土器や石器などが見つかりました。

平成23年度から行ってきた調査によって、縄文時代から何度も川が氾濫して流れを変えていたこの場所を、弥生時代以降に人々が護岸施設のある溝などを作りながら、次第に水田として開発していった様相が明らかになりました。

遺物の写真撮影や報告書の原稿執筆など、室内での整理作業もいよいよ大詰め。報告書作成に向けて、ラストパートです！



弥生時代の護岸施設（矢板と横板）



縄文時代終わり頃の調査区全景

松原田中遺跡 まつはらたなかいせき

(1区)



発掘調査に携わった人びとと数字

現地調査は、昨年12月に無事終了。今回はすこし切り口を変えて、調査に携わった人びとは、発掘調査員、ボーリング調査技術者、測量士、空中写真撮影技術者など多彩なメンバー。そして主力となって土と格闘された作業員さんはなんと延べ3,000人以上！

調査期間193日、調査面積1,826㎡（畳1,100枚以上）、それを囲む鋼矢板は440枚。機材は、測量機材一式、バックホー数台、ベルトコンベア延べ約3,500台、水中ポンプ延べ約1,400台など。さらにカメラは5台、撮影総数10,500コマ。

遺構面8面。遺構は、掘立柱建物8棟、溝40条、土坑やピット339基、落ち込み19か所、木製構造物、杭列、石群など多数。その時期は、おもに弥生時代後期（約1,800年前）から古墳時代後期（約1,500年前）にかけてです。

土器、石器、木器などの遺物は165コンテナ。これまでに洗いが終了。報告書作成に向けて、注記、分類、実測、写真撮影、トレースといった作業がこれから本格化します。いつの時代のどんなものがあるのか？ 土器 ドキッ



技術者による発掘前のボーリング調査



発掘作業員による遺構掘削